

かいじくら ブを追って

切りのみ隊長

「一番セカンド佐藤輝正君」

佐藤君は、三人兄弟（弟・妹）の長男、小学校四年から野球を始めた。父親の昭夫さんは、地元のソフトボールチームを引きつれて全国大会へ行ったこともあるという、根からの野球人。

硬式が軟式か迷った佐藤君は「国体で山梨代表としてがんばりたい」と強い意志でかいじクラブへ入部、辛かったことは「冬場の練習」、楽しかったことは「野球できること自体楽しい」と明るい顔で答えてくれました。

そもそも野球を始めたのが父親の影響、家族の佐藤君への協力は万全、遠征で朝早く出かける時は、母親の弁当が楽しみとか。



谷村工業高校ウエイトリフティング部 島袋隆之監督

昭和五十九年四月に本校に赴任、大学時代重量挙げの選手として活躍、今でも現役としてがんばっています。
全国でも五十人からの部員を擁するこの部の部は珍らしい。



打線の要

「一番ファースト小川正仁君」

小川君は、三人兄弟（姉・

「佐藤君は非常に努力家で、練習には一回も休んだことがなく、いつもチームのリーダーとしてもくもくと練習に励んでいる」と監督、最後に今の目標は「わかとり国体に出場するため、9月の予選に勝つことです」と答えてくれました。

弟）の長男、中学時代はショートを守り、守備には自信。長身をいかしての守りは、捕球範囲も広く、内野手もおもいきり投げられる。

「硬式でやりたかったけど、やってみれば楽しい、同じ野球ノ軟式でがんばります」と副主将らしくはつきりした口調で答えてくれました。

辛かったことは「やっぱり冬のトレーニング」、楽しかったことは「合宿で夜みんなどいろんなことを話したこと」家に居る時はロックも聞くといい現代っ子。

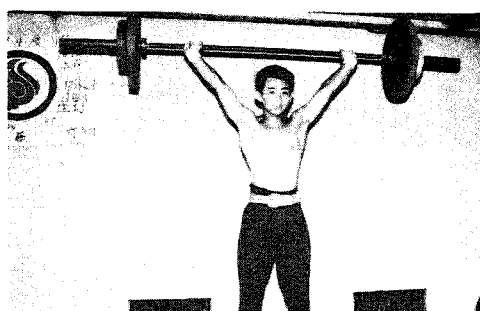
「家では、母親とよく話をします。父親はきびしい人です。両親とも野球への理解はあります。たまには応援にも来ます。」と小川君、最後に「気合を入れて、声を出して、絶対にわかとり国体に行きます。」と答えてくれました。

（写真 右、佐藤君、左、小川君）

いとのこと。それだけに、部内での競争が本人の実力にもつながる。競技について先生は、「重量挙げは、論理的な裏づけの上に、タイミング・集中力・瞬発力を必要とするスポーツで、また筋力というものを科学的に分析した上での

若い力キラキラ

重量挙げの
ホープたち



谷村工業高校ウエイトリフティング部は、部に昇格してまだ二年たらず。しかし、五十人の部員を擁し、その頂点には全日本ジュニア選手権大会（世界ジュニア選手権大会選考会を兼ねる）インターハイ

52 kg級優勝という輝かしい戦歴を持つ渡辺博君（三年生）を始め、加藤洋君（三年生）62 kg級六位入賞・佐藤誠君（二年生）67 kg級17位などがいます。

渡辺君（富士吉田市）は、八月二十九日から九月三日まで韓国・釜山で開かれる日韓ユース大会へ出場するため目下練習に励んでいます。

彼は、百メートル十一秒八という俊足、それだけに瞬発力には非凡なものがあります。「この競技は、精神的にも肉体的にも疲れます」との談。

将来の目標は「秋の国体で優勝、そしてソウル五輪を目指します」と一言。日本の渡辺から「世界の渡辺」へと飛躍することを期待します。

都留一中・二中

相撲を制覇

県中学校夏季総合体育大会

先の県中学校総体で、都留二中が相撲団体戦で強豪忍野を圧勝しむごと優勝。また、個人戦では、都留一中の小松勝彦君・岡崎誠君が一位・二位を独占。三位には都留二中の前田治郎君が入るなど完全制覇をなしとげました。
おめでとうございます。